



ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校 後援会

News

(139)

2020年6月15日
発行
ルーテル学院大学
日本ルーテル神学校
後援会
編集
推進委員会
<http://www.luther.ac.jp/>
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL: 0422-31-4611
FAX: 0422-33-6405

貴い献金に感謝

ルーテル学院大学 学長 石居 基夫



全国から送られてくる後援会献金に、いつも心熱く寄せられています。送っていただきますのは、お金だけではありません。祈りと願い、希望がある。それが学院の働きを強めて、学生一人ひとりが育てられていく、その恵みと大きな力を思うからです。

今、新型コロナウイルスの猛威の中、医療・福祉の現場で卒業生たちが働いてくださっています。厳しい現実の中で、自らが感染しないこと、そして相手に感染させないということへの強い緊張の中、一人ひとりを支援する働きの現場に立ってくださる様子が、様々な形で教員たちのところに届いています。彼ら彼女ら自身、不安や恐れの中にあって、また人間の限界を感じさせられながら、それでも差し伸

ばす手の先に、一人ひとりのいのち、生活、人生があることに心を砕いてくださっています。これがルーテルの卒業生たちなのだ、知らずに接するたびに、誇らしくも思い、頑張る姿に切ないような気持ちも抱き、そして、この学院の働きの大切さを思わせられて、励ましを与えられています。

皆様を送ってくださる祈りと献金は、今、こんなふうに実りを結んでいるのです。苦しい現実が広がっています。それでも、困窮の中でこれ以上に失われるいのちがないように、こぼされる涙が拭かれるように、対人援助の専門職を送り出していきたい。毎年、後援会では左の献金感謝ポスターを作成して、教会などにお送りしています。皆様からのお支えに、心からの感謝とともに、一層のお願いを申し上げる次第です。

学長退任のご挨拶

教授・学術顧問 市川 一宏



まず、学長として再任されました二年間、皆様にお支え頂きましたこと、心よりお礼申し上げます。

さて、これからの私の役割の一つは、今まで数十年にわたり、一緒に学び、社会に送り出してきた卒業生を応援していくことと思っています。期せずして、学長を退任してすぐ、その機会を与えられました。

四月の始め、私にニューヨークの病院のICUで看護師として働いている卒業生からLINEが届きました。新型コロナウイルス感染者が急増し、病院が深刻な医療崩壊に直面しているとのこと。十分な感染防止の器具もなく、患者さんのケアをしている卒業生に応援メッセージを送ろうと、卒業生・教職員に呼びかけたところ、たくさんの方のメッセージが送られてきました。卒業生とのやりとりは、私のブログ「市川一宏研究室」に掲載しました。

この間の卒業生とのやりとりを通して、私は、それぞれが福祉、医療、教育、そして家庭や地域の中で、踏ん張っていることを知りました。確かにコロナウイルスの広がりは、不安、不信を生み出し、負の連鎖が広がっています。だからこそ、大切なもの、大切なことを守り抜く決意が必要です。私はそこに「卒業生との関わり」を加え、大切にしていきたいと思っています。そして、卒業生にお願いして、今さまざまな困難に直面している在学生を支える方法を一緒に考えさせて頂ければと考えています。どうぞ応援してください。

後援会を応援します!!

日本ルーテル教会
大船ルーテル教会 牧師
松川 和義

私は牧師の家庭に生まれました。物が付く前から礼拝堂に出入りして遊んでいました。教会によって育まれ、恵みをたくさんいただきました。その恵みに応えたいと思い、牧師へと道を進みました。神学大学に入り、ラグビーと出会いました。当時は日本一小さな大学でしたが、ラグビー部がありました。人数が少なくとも熱く楽しみました。ラグビーワールドカップが日本であり、たくさんの方がその熱き戦いに飲み込まれ、熱い応援をする、そんな姿をたくさん見ました。私もテレビを見ながら「またやりたいな」などと熱くなりました。

一生懸命頑張っている人は、輝きます。そして周りで見ている人の心をひきつけ、応援したいという熱い気持ちに沸き上がります。まず応援するためには、その人を見なければ始まりません。ラグビーワールドカップが日本で行われて、たくさんの方がラグビーを見る事ができました。また、応援する人たちの熱さが、プレーをする人たちを熱くしました。後援会も同じでしょう。まずは、どのような人が学院で学び、どんな活動をしているのか知らなければ、また、学院がどんなところか見て感じてみなければ、その熱さを知ることができないでしょう。そしてその熱さをさらに熱くするのが後援会です。

皆さんの熱き祈りと献財をこれからも届けてください。熱き思いを持ち、学ぶ一人ひとりのために。その学びの場を整え、教える者たちのために。

推進委員の交代

二〇一九年度で退任
坂口 晴実
ルーテル学院大学臨床心理学科に社会人編入学し、大学院臨床心理学専攻を卒業しました。委員会が楽しみで勤務後も遠方からも喜んで通いました。推進委員としてキリストの心を心とする学院を応援できましたことは、大きな喜びです。この度、本学の神学校へ入学が決まり、残念ですが退任となりました。本当にありがとうございました。

上村 敏文

後援会はルーテル学院大学、神学校でもとても大きな存在です。私自身、後援会長であった方が教会で礼拝後にいつもニコニコしながら挨拶をされておられたことを思い出します。しかし、実際に委員になり、毎月集まり会合を持っていることは恵みと思えました。この尊い集まりに関わることが出来たことは感謝です。有難うございました。

二〇二〇年度に就任

宮本 新

本学を卒業して月日が経過していますが、かえって鮮明に思い出されることがあります。それは後援会の方々から学生に向けられた励ましと大きな期待です。その希望にみちた励ましの雰囲気はゆるぎなく一貫したものがありません。今その後援会の働きに加えられることに思いを新たにしています。どうぞよろしくお願いたします。

按手式に参加して

日本福音ルーテル大江教会 新美 美穂

九州教区総会の後に行われた森下真帆牧師の按手式に参加しました。「どんなことが行われるのだろう、一度見たい。」と興味津々でしたが、次第に胸がじんとしてきて、コロナ対策のマスクが涙を拭うハンカチ代わりになりました。

牧師の誕生は、自分の洗礼を思い起こすと同時に、牧師先生がこのようにして召し出され、祝福され、送り出されるのだとよくわかりました。按手式は東京で行われるものと思込んでいたことが、以前は地方でも行われていました。ルーテル学院大学と日本ルーテル神学校は、遠いところにある学校と、私が勝手に距離をとっていただけで、神さまは私のすぐ隣で微笑んでおられた。そんな感じを持ちました。今回の按手式はネット配信されたことも後から知りました。技術は進

歩し、感染症予防や拡大防止策としてさまざまな工夫がなされています。そのうち、一日神学校や学園祭「愛祭」もオンラインで共に学んだり、交流を深めることができるでしょう。地方から心細い思いで上京し、入学された学生さんたちへ応援メッセージを届けたら、「頑張っていますよ。」の元気な報告を聞くことも、もっと簡単にできるようになるでしょう。社会人入学を様々な事情であきらめても、オンライン聴講で最新の学びをしながら現場で実践することができたら幸せです。

私にとって、今回の経験は、物理的な距離も心情的な距離も一気に縮まりました。九州の地から、大きな声で応援します。学生の皆様にとって、より良い学びの環境をつくり、安心して勉強を続けられるよう微力ながらお支えしたいと思えます。



2020年度 献金目標額
2,500万円

今年度の
一日神学校について

新型コロナウイルス拡大防止のため、
9月22日(火・祝)は中止
となりました。延期の場合は
次号にて日程をお知らせいたします。

篤い祈りと
尊い献金に支えられて

2019年度は約1,800万円の献金をいただき、教育施設・備品の拡充整備、図書・教材の購入、奨学金、障がい学生へのサポート、神学校教育のために用いさせていただきました。

2020年度は103名の大学生と3名の神学校生を新たに迎えました。

後援会は皆様のお支えに心から感謝します。
今年度も目標額2,500万円達成をめざして活動を進めてまいります。

ルーテル学院大学 後援会
ルーテル学院大学 日本ルーテル神学校

ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校 後援会事務局 〒181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-20 TEL: 0422-31-4611